

No. 11

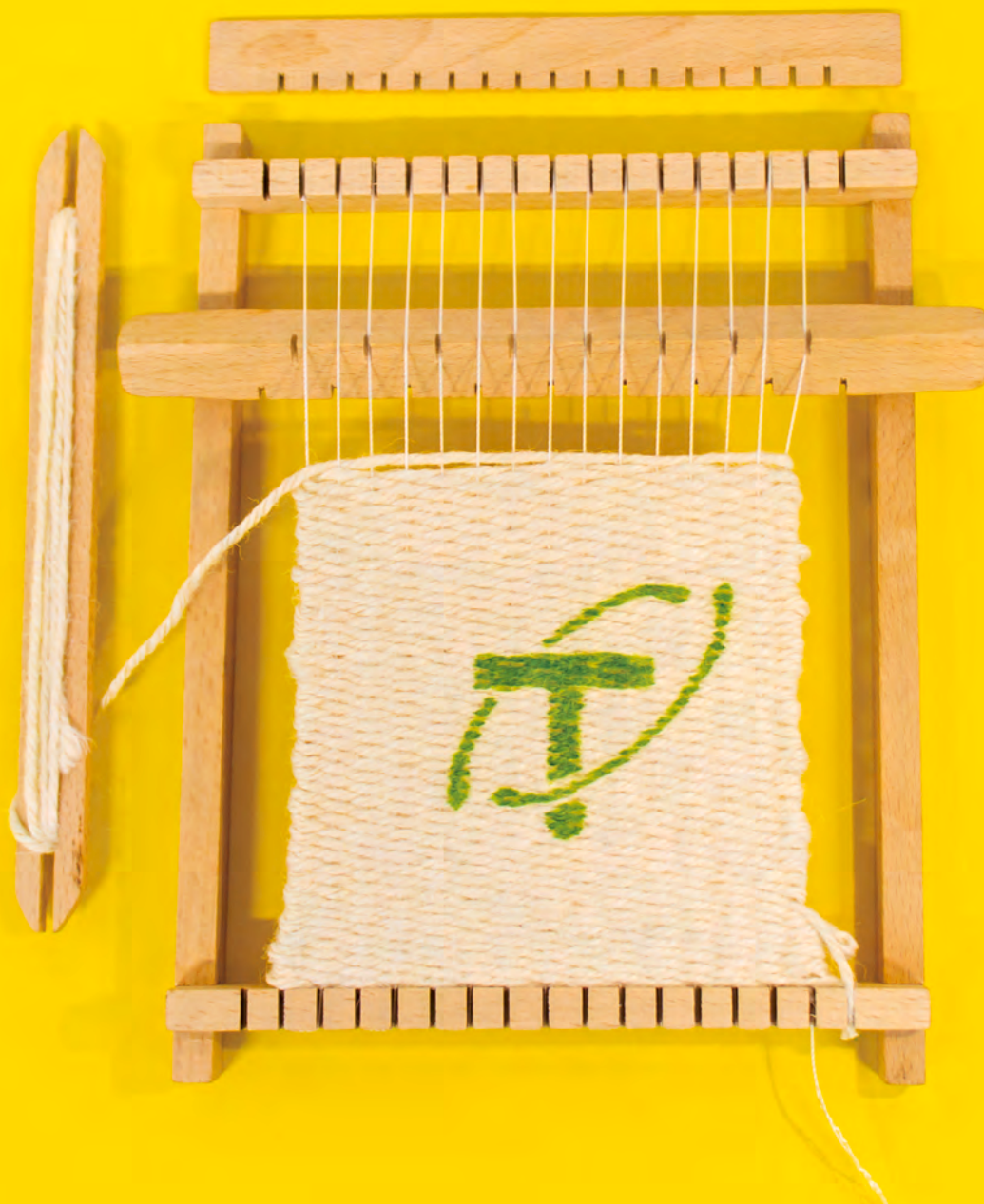
総合病院 土浦協同病院
広報誌 touch (タッチ)
TAKE FREE

touch

contents

ふれあい：乙戸沼公園

かけはし：土浦ベリルクリニック



特集：チーム医療への取り組み

チーム医療への 取り組み

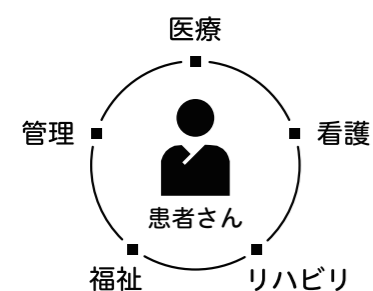
■ 患者さんを中心とした医療

病院は医師をはじめとする多くの専門職によって構成されています。

医師はそれぞれに専門領域を持っており、病気や怪我の内容によって受診する診療科は変わってきます。また、病院ではレントゲンやCTの撮影、採血、心電図など様々な検査のほか、看護、服薬管理、リハビリテーション、医療機器の操作、栄養指導、治療後の社会復帰に向けたフォローなど、多くの専門的な知識とスキルを必要とする場面があります。

それぞれの持つ専門性を活かしながら多職種が連携し、患者さんを中心とした医療を提供していこうとするのが「チーム医療」です。患者さんにとって最善の医療を提供する、という目的を達成するために欠かせないチーム医療と当院の取り組みについて紹介します。

■ チーム医療のメンバー



- 医療
医師、歯科医師、薬剤師、診療放射線技師
臨床検査技師、臨床工学技士、管理栄養士
歯科衛生士など
- 看護
看護師、保健師、助産師、准看護師
ナーシングアシスタント、医療秘書など
- リハビリ
理学療法士、作業療法士
言語聴覚士、視能訓練士など
- 福祉
社会福祉士、臨床心理士、介護福祉士など
- 管理
事務職員、診療情報管理士など



緩和ケアチームの定例会議。事例報告や薬剤情報、病院食の内容まで幅広い議題を多職種が集まって検討しています。

7つのピース

チーム医療を構成する

チーム医療を実践するために必要なことはなにか。当院の取り組みを交えて紹介します。

#1 患者さん、ご家族

チーム医療では、患者さんもチームメンバーの一員であり、自らの治療に主体的に参加することが大切です。また、ご家族もチーム医療のメンバーです。患者さん本人と共に治療の説明を受け、病状を把握します。療養生活を送るうえでのアドバイスや、不安なことがあれば遠慮なく医療スタッフにご相談ください。



#2 QOL (Quality of Life)

病気によって、今までと同じ生活を送ることが困難になるケースがあります。QOL はただ病気を治すのではなく肉体的、精神的苦痛をなるべく少なくし、また社会的にも「質の保たれた生活」を維持している、という考え方です。患者さんの病状だけを診るのではなく、個々の生活背景にも配慮した治療方針を重視します。QOL の向上にはチーム医療が不可欠です。



#3 専門性

医療の進歩に伴い各医療スタッフの専門性も高まっています。当院においても、それぞれの職種で「認定資格」を取得し、活躍するケースが増えています。当広報誌でも多くの資格取得者を取り上げてきました（右の医療スタッフはその一部になります）。資格取得者以外にも、様々な職種を紹介しています。興味がある方はホームページからバックナンバーをご覧ください。



がん化学療法看護認定看護師
鶴田晴美



不整脈治療専門臨床工学技士
高野真史



血管診療技師臨床検査技師
関谷直子



#4 多職種連携

医師だけではカバーしきれない患者さん個々の背景を多職種が連携して対応します。お薬に関する疑問、退院後の生活、社会復帰に対する不安、医療費の問題、再発防止のため気をつけることなど、日常生活への復帰には多くの課題があります。それらの課題に対し、それぞれ対応する医療スタッフが協力して解決への手助けを行います。



外科カンファレンス

#5 診療科の連携

多くの医師が共通してあげる当院の特徴に「診療科間の垣根がない」ということがあります。カンファレンスには複数の診療科が参加することも珍しくなく、院内コンサルテーション（他の専門家に相談すること）にも積極的です。近年、様々な治療法を組み合わせた集学的治療の重要性が高まると共に、提示された治療法を患者さんが納得して選択することが医療現場に求められています。診療科同士のフラットな関係性は、こういった場面で大きな強みとなります。



ハートチーム

#6 医療チーム

当院にはそれぞれの病気や治療に対応した医療チームが設置されています。各チームは医師を含む多くの職種で構成されており、病院内におけるスムーズな連携や情報共有の土台になっています。



#7 院外との連携

患者さんを中心とした医療の提供には施設の枠を超えた広域な医療・介護連携、地域包括ケアが重要です。病気になっても住み慣れた地域で安心して暮らすことができれば、それがなよりの負担軽減になります。当院では地域医療連携室や患者サポートセンターなどが院外との連携を担っています。

医療チーム

を紹介します

【NST(栄養サポートチーム)】



栄養管理は全ての治療において重要な基本的医療のひとつです。適切な栄養状態を保つことで治療効果を最大限発揮できるだけでなく、感染症や合併症の予防にもなります。当院では入院患者さんの栄養状態を評価し、必要があれば栄養サポートを行っています。また、院内外に向けた勉強会も定期的に開催し、栄養サポートの啓蒙や情報共有に努めています。

【小児摂食・嚥下ケアチーム】



NICUやGCU、小児科、小児外科などで入院している患者さんで、摂食・嚥下機能に関する介入が必要な場合の支援を行っています。また、メンバーが学会などで学んだ情報を院内で共有することで、医療の質の向上にも努めています。

【糖尿病サポートチーム】



糖尿病の治療は長期にわたります。糖尿病は患者さん自身が食事や運動などの生活習慣を改善し、継続していくことが大切になります。チームメンバーが患者さん一人ひとりの生活に合わせて療養のアドバイスやサポートを行います。また、患者さんや一般市民を対象とした教室や講演会の実施、職員向けの勉強会なども行っています。

【下肢救済・フットケアチーム】



糖尿病合併例や重症虚血病変は治療に難渋することが多く、切断にいたる可能性も高くなります。そのような患者さんに対して、診療科や職種を超えたチームとして対応し、救肢及びQOLの維持に努めています。創傷管理や血行再建といった治療も大切に

【緩和ケアチーム】



ですが、発症予防、再発予防がより大切であり、糖尿病やフットケアに関する教育やセルフケア支援、フットウェアについての紹介も行っています。

がんなどの治療中における患者さんの身体的・精神的な悩み、療養生活を送るうえでの問題などに対して専門的な支援をするチームです。つらい症状やお悩みがある時は、まず担当医師や看護師にご相談ください。緩和ケアチームが一緒にサポートします。

【ハートチーム】



循環器疾患の治療を担う循環器内科、心臓外科、血管外科、放射線科を中心とした様々な診療科と看護師、検査技師、臨床工学技士、事務を含めた多くの医療スタッフによって構成されています。手術、内服加療を総合的に考慮した加療方法の決定、手術での連携、術前術後のケアやリハビリも含めた包括的かつ集学的な治療を提供できるよう努めています。

【呼吸器感染症管理チーム】



感染症の中でも新型コロナウイルス、フルエンザや2類感染症の呼吸器感染症、指定感染症の感染予防と対策を担っています。実際に上記感染症が発生した場合の対応のほか、院内シミュレーションの計画と実践なども行っています。

【抗菌薬適正使用支援チーム】



抗菌薬を適正使用することは、院内で抗菌薬が適正に使用されているか評価しています。また、感染症治療に関するコンサルテーションや、近隣の医療従事者や市民に対する公開講座の開催も行っています。

【褥瘡対策チーム】



高齢化に伴い、褥瘡発生の危険度の高い患者さんが増加してきています。褥瘡は発症予防の対策はもちろん、発症後早期からの適切な処置も大切であり、全入院患者を対象にして評価し対策を講じる必要があります。褥瘡対策チームは院内

【包括的心臓



リハビリテーションチーム】循環器疾患のリハビリと、再発予防や日常生活における注意点の教育・指導などを行っています。指導に使うパンフレットの作成もしています。

【口腔ケアチーム】



口腔ケアには、むし歯・歯周病・誤嚥性肺炎などの感染症の予防、術前後の栄養状態の改善など様々な効果があります。疾患や治療により体の抵抗力が衰えると、口腔内のトラブルが引き起こされる場合があります。そういった口腔ケアを必要とされる患者さんに対するサポートを行っています。

【骨粗鬆症リエゾンチーム】



高齢化を背景とした高齢に伴う脆弱性骨折は増加傾向にあります。高齢者の骨折は要介護や要支援の原因となる場合が多く、ご本人やご家族にとって負担となります。脆弱性

骨折の原因となる骨粗鬆症の治療と治療の継続・服薬率の向上、二次性骨折の予防を支援し、骨折患者の治療環境の向上と未然防止を目的としています。院内外や地域に向けた講演を通じた啓発活動も行っています。

【RST(呼吸サポートチーム)】



人工呼吸器からの早期離脱や医療安全管理の徹底などを目的としています。主な活動として人工呼吸器を装着する患者さんの院内巡視、呼吸療法に関連する勉強会の開催、院内教育プログラム、マニュアルの作成、各部署における呼吸管理の問題点の共有と対策などを行っています。

【救急医療対策チーム】



急性期医療を担う当院では救命救急センターを設置しています。救急医療対策チームは救急医療に関わる様々な事例や、運営上発生した問題点などを検討し、診療体制の適正化と質の向上を図ることを目的としています。

【HIV診療チーム】



HIV感染症の診療において、疾患の正しい理解や服薬指導を通して患者さん自身の健康を維持・向上できるように支援しています。

【エイズピアエデュケーションチーム】



HIV感染から自分自身や友人、パートナーを守るため、エイズに関する正しい知識の啓発活動を通じて感染症の予防に努めています。

検査部 臨床検査技師 **no.21**
細胞検査士 横須賀 仁美



**目の前にある検体を
見ることを心がけて**

検査業務のなかでも、細胞検査士として病理検査と細胞診検査を担当しています。病理検査では、患者さんから組織を採取し、医師が診断するために必要な標本を作成しています。細胞診検査では、様々な検体の良し悪しを見分けて、悪そうな細胞を見つけた場合は医師と共にチェックしています。

勤続年数：11年 趣味：音楽鑑賞

を持ちすぎないように注意しています。患者さんの病歴や背景などの情報も重要ですが、まずは目の前にある細胞や組織をきちんと見ることを心がけています。

細胞検査士の資格を取得しましたが、まだまだ知識が必要だと感じる場面が多くあります。細胞や組織の見え方はひとつひとつ違うので判断が難しく大変ではありますが、その分やりがいも感じます。今後も勉強を続けて治療に貢献していきたいです。



乙戸沼公園

かつて「乙」の形をしていたといわれる乙戸沼がある自然公園です。沼の周辺にはソメイヨシノやヤエザクラが約900本植えられており、桜の季節には大勢の花見客でいっぱいになります。また、道路を挟んだ向かい側には乙戸沼水生植物園があり、こちらではたくさん種類のアヤマやハナシヨウブを楽しむことができます。沼の周囲はジョギングコースとして整備され、1周が1770mと

ふれあい
地域とふれあい、地域を知ろう



乙戸沼公園
土浦市中村西根50-10

適度な運動にはちょうどいい距離になっています。

園内には滑り台や飛び石、雲梯や橋などが繋がった大型の複合遊具も設置され、季節を問わず多くの家族連れが訪れています。公園を訪れるのは人間だけではありません。冬季にはヨシガモやヒドリガモ、ミコアイサ、コハクチョウなど、たくさん野鳥が越冬にやってきます。

自然と人間と動物が調和した癒しの公園です。

**患者さんが気持ちよく
受診できるように**

内科外来にて医師と共に診察室に入り、検査の案内や説明、入院の説明、患者さんの移送など診療の補助を行っています。

医療秘書は医師や看護師と違い、医療の専門的な知識があるわけではありません。だからこそ、院内の勉強会などに積極的に参加して、自分なりに患者さんの様子や情報を伝えられるよう心がけています。

勤続年数：27年 趣味：ライブ鑑賞

す。また、医療者に言いにくいことを受けとめて伝えるのも大切な役割です。患者さんと医療者の間に立って、スムーズに診療が進められた時にはやりがいを感じます。

「外来は病院の顔」と言われています。患者さんと接する機会の多い私たちが病院の印象を決めることもありま。今後もコミュニケーションを大切にしながら、患者さんが気持ちよく、安全・安心に受診できるよう努めています。

看護部 医療秘書 **no.22**
塚本 美穂子





かけはし

地域の健康をまもる
連携医療機関の紹介

Vol.13

医療法人虹嶺会 土浦ベルリククリニック

住 所：茨城県土浦市都和4丁目4022-2
電 話：029-835-3002
診 療 科：内科、消化器内科、糖尿病内科、
人工透析内科、泌尿器科、腎臓内科、
循環器内科

休 診 日：木曜・土曜午後、日曜、祭日
U R L：http://www.beryl-clinic.org

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 (09:00 ~ 12:00)	○	○	○	○	○	○	休
午後 (14:00 ~ 18:00)	○	○	○	休	○	休	休

※透析外来は8:00～23:00となります

※診療科目ごとに診療日・診療時間が違いますので詳しくはホームページをご覧ください

ご挨拶
当院は平成25年4月に土浦市都和に開院した新しいクリニックです。常勤専門医3人で、外来診療と透析治療を行っています。外来診療においては、一般的な内科疾患をはじめ、消化器疾患、糖尿病、循環器疾患、泌尿器科疾患を専門的に診療しています。血液検査、内視鏡、エコー、CTなどの最新の機器を導入しており、速やかに正確に診断、治療ができるように取り組んでいます。透析治療においては、高齢者やADLの低下した通院困難の方が増加しており、送迎をはじめ安全に透析が受けられるように心がけております。種々の合併症が発症した場合や、当院での対応が困難な場合には、土浦協同病院の各科の先生やスタッフの方々にいつもお世話になっており大変感謝しております。土浦協同病院とはこれからも病診連携を密接にし、かかりつけ医として日常的な診療を行ってまいります。日頃より地域の皆様に支持されるクリニックを目指しておりますので、今後とも連携とご協力をよろしくお願い致します。

アクセスマップ



山田 幸太 院長



病院内にあるコンビニエンスストアで1階市民交流広場の奥、エレベーター付近にあります。通常の店舗と変わらず24時間営業で、マルチコピー機やセブン銀行ATMなどの各種サービスも取り扱っています。また、包帯やガーゼなどの医療材料、入院生活で使用する様々な品物もご用意しております。お店の向かいにはイトインスペースも設置していますので、お食事や休憩時にご利用ください。

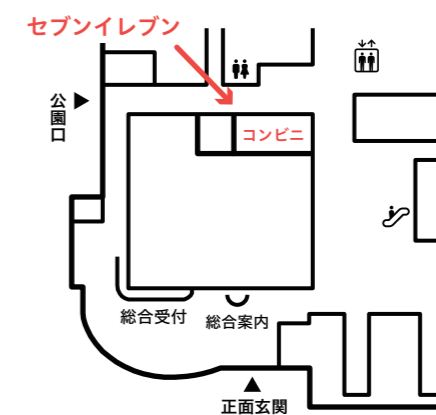


基本情報

場 所：1階エレベーター付近
営業時間：24時間
取り扱い：マルチコピー機
セブン銀行ATM
宅配便
各種料金のお支払
各種医療材料
入院用品など

※年末年始は営業時間が異なります。

アクセス



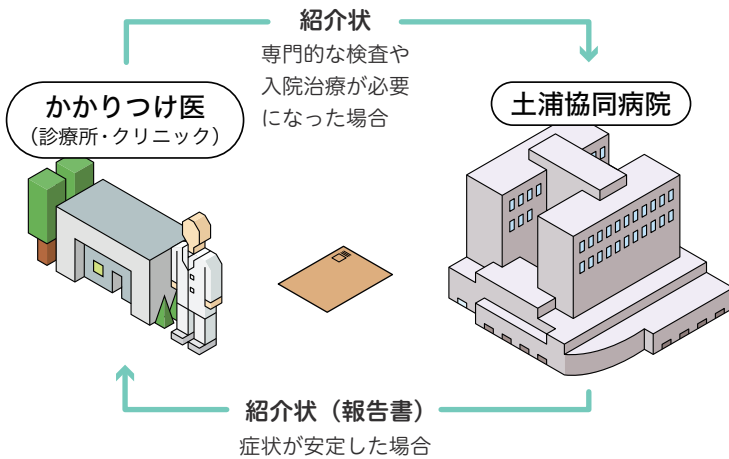
セブン・イレブン
総合病院土浦協同病院店

院内探訪
Facility

09

土浦協同病院には様々な施設があります。快適に過ごしていただくための施設から、見つけたらちよっとうれしい「なにか」まで、院内のあらゆるスポットを紹介いたします。

かかりつけ医と専門医
ふたりの主治医を持ちましょう



「かかりつけ医」と「専門医（病院）」が連携し、
適切な医療を提供します。

土浦協同病院の医師と、ご近所のかかりつけ医のふたりが主治医となります。ご近所のクリニックや診療所のかかりつけ医が日常的な診療や健康管理を担当し、土浦協同病院の専門医が検査や手術、入院が必要な場合の医療を担当します。役割分担をすることで適切な医療の提供を目指します。

紹介状をお持ちいただくと…

- ・ 検査の重複を防ぎ、医療費の抑制になります
- ・ 選定療養費（5,400円）が不要となります
- ・ かかりつけ医を通して予約すると、事前にカルテの準備が可能になり、スムーズな受診につながります



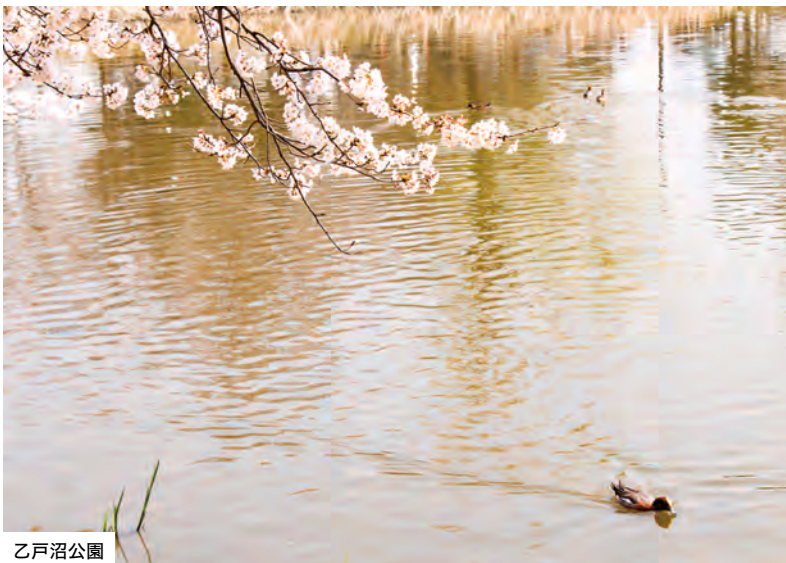
患者さまの声

→ voice

休日や夜間救急外来に来たら、面会の方が駐車場に車をとめていて、遠くの駐車場しか空いていません。具合が悪いのに歩かせてももっと悪くなりそうです。

← answer

ご不便をおかけして申し訳ございません。救急用駐車場は、救急外来を受診される患者様にご利用いただくために設置いたしております。警備員が見回りはしておりますが、全てに対応できておりませんでした。今後は、見回りを強化するなど、対応策を検討してまいります。



乙戸沼公園

｜ 編集後記 ｜

表紙の写真は様々な専門職を縦糸、チームの力を横糸に例え、最善の医療を提供する様子を表現しました。また、今回紹介した医療チームは広報誌にて随時取り上げていく予定です。

次号の touch は 4 月 30 日発行予定です。バックナンバーは当院ホームページから閲覧できます。

touch（タッチ）は土浦協同病院の広報誌です。タイトルには、地域とふれあい、私たちの理念を地域の皆様に届けたい、という願いを込めました。

発行所／総合病院 土浦協同病院
編集／病院機関誌委員会 地域医療連携室
発行人／酒井義法
MAIL／general@tkgh.jp